

いへるをおもへば、これら的事いにしへまゝの事にて、皇國にて今時竹竿に五色の短冊をつけ、家々にたつるも、これらによりしならん、又庭上にふみを置て、さほのはしに、五色のいとをかけて、一事を祈るに、三年の内に必叶公事根源とあるは、全く暴經書及衣裳といひ、竹竿頭上願絲多といへるによりしなり。

〔塵添鑑囊抄七〕乞巧奠事 七月七日七夕祭り也、風土記曰、七月七日牽牛織女會天河、俗掃庭露施机筵ト云々、牽牛ヲ爲夫ト、織女爲婦ト、七月七日ニ庭上机ヲ立テ、供具ヲ備ヘ、香花ヲ調ヘテ、又筆ノ前ニ色々ノ糸ヲ懸テ、織女ニ供ジ奉ル也、只是織女祭リ也。

〔續齊諧記〕七夕牛女 桂陽成武丁有仙道、常在人間、忽謂其弟曰、七月七日、織女當渡河、諸仙悉還宮、吾向已被召不得停、與爾別矣。弟問曰、織女何事渡河去、當何還、答曰、織女暫詣牽牛、吾復三年當還、明日失武丁、至今云、織女嫁牽牛。

〔西京雜記三〕戚夫人侍兒賈佩蘭、後出爲扶風人段儒妻、說在宮內略中至七月七日、臨百子池、作于闌樂、樂畢以五色縷相羈、謂爲相連愛、八月四日出雕房北戶竹下園碁、勝者終年有福、負者終年疾病、取絲縷就北辰星求長命乃免。

〔開元天寶遺事〕蜘蛛卜巧 帝與貴妃每至七月七日夜，在華清宮遊宴、時宮女輩陳瓜花酒饌、列於庭中、求恩於牽牛織女星也、又名捉蜘蛛、閉於小合中、至曉開視、蜘蛛稀密、以爲得巧之候、密者言巧多、稀者言巧少、民間亦效之。○中略

乞巧樓 宮中以錦結成樓殿、高百尺、上可以勝數十人、陳以瓜果酒炙、設坐具、以祀牛女二星、嬪妃各執九孔針五色線、向月穿之、過者爲得巧之候、動清商之典、宴樂達旦、士民之家皆効之。

〔荊楚歲時記〕七月七日、爲牽牛織女聚會之夜、按戴德夏小正云、是月織女東向、蓋言星也、春秋斗運樞云、牽牛神名略、石氏星經云、牽牛名天關、佐助期云、織女神名收陰、史記天官書云、是天帝外孫、